

(特別講演)<我と汝>の出会いと対話:ブーバーに学ぶ ケアの原点

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉田, 敦彦 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032074

〈我と汝〉の出会いと対話：ブーバーに学ぶケアの原点

吉田 敦彦

(大阪府立大学副学長／地域保健学域教育福祉学類・人間社会システム科学研究科 教授)

1. ケアの三つの位相

- 1) 「ひとりみんなのために、みんなはひとりのために」——「あなた」の次元は？
- 2) ケアの三つの位相：社会／他者／自己、ケアシステム／ケアリング／セルフケア
- 3) ブーバーにおける人間存在の基本単位：個人でも社会でもなく「二人ずつ存在」

2. ケアの原点 —— 他者からの呼びかけへの応答

- 1) 他者（汝）との出会い —— ケアのはじまり
- 2) 呼びかけへの傾聴と応答 —— ケアリング関係
- 3) ブーバーの対話哲学と応答責任 —— 人間の第一義的責任としてケア

3. 人類史的な問いとしてのケア

- 1) 進化の果てのケアの脱自然化 —— 自然からの人類の自立と共同体の中でのケア
- 2) 近代化の果てのケアの外部化 —— 共同体からの個人の自立とシステムの中でのケア
- 3) ポスト個人化時代の新たな人のつながり方 —— ケア・コミュニティの可能性

1. ケアには三つの位相がある。社会の次元に、制度化されたケアシステム。他者関係の次元に、ケアする者とケアされる者とのケアリング関係。対自己関係においては、ケアする自己をケアするセルフケア。この3つの次元のそれぞれの意義を認め、相互の補完的な関係性を見定めておくことは重要。そうであると同時に、ケア（さらに言えば人間という存在）のプライマリーな原基が、向かい合う二人の間の関係性・ケアリング関係にあるという認識も大切で、マルティン・ブーバーの我と汝の対話哲学を踏まえて、その次元に焦点を当てたい。

2. ケアリングの原点は、他者からの呼びかけに応答することにある。他者、出会い、呼びかけ、傾聴、応答、対話……。耳障りのよい言葉であるが、これらを哲学の術語として吟味したマルティン・ブーバーの思想においては、じつに鋭く厳しい深さをもっている。ケアリングは、3人称の〈それ〉ではなく2人称の〈汝〉としての他者と出会うことから始まる。その他者の、自己の枠組みでは理解しえない他者の声に（痛みに）耳を傾けること。その呼びかけに応答すること。その呼びかけ（Calling）がケア専門職の職命であり、それに応答するのが専門職の責任であること。そういったことをブーバーの対話哲学を紐解きながら考えてみたい。

- 最後に、個人化とケアの制度化（外部化）が急速に進展している現代の状況を視野に入れて、「ケア」の問題を「人類史的な問い」として深めてみたい。現代にあって「ケア」が主題化されるのは、特異な生物としての人類が、持続可能性をかけた岐路に立っているからである。人間にとってケアとは何か。あるいは、ケアにとって人間は、いかなる問いであるのか。人類は今、答えのない問いの前に連れ出されている。
-